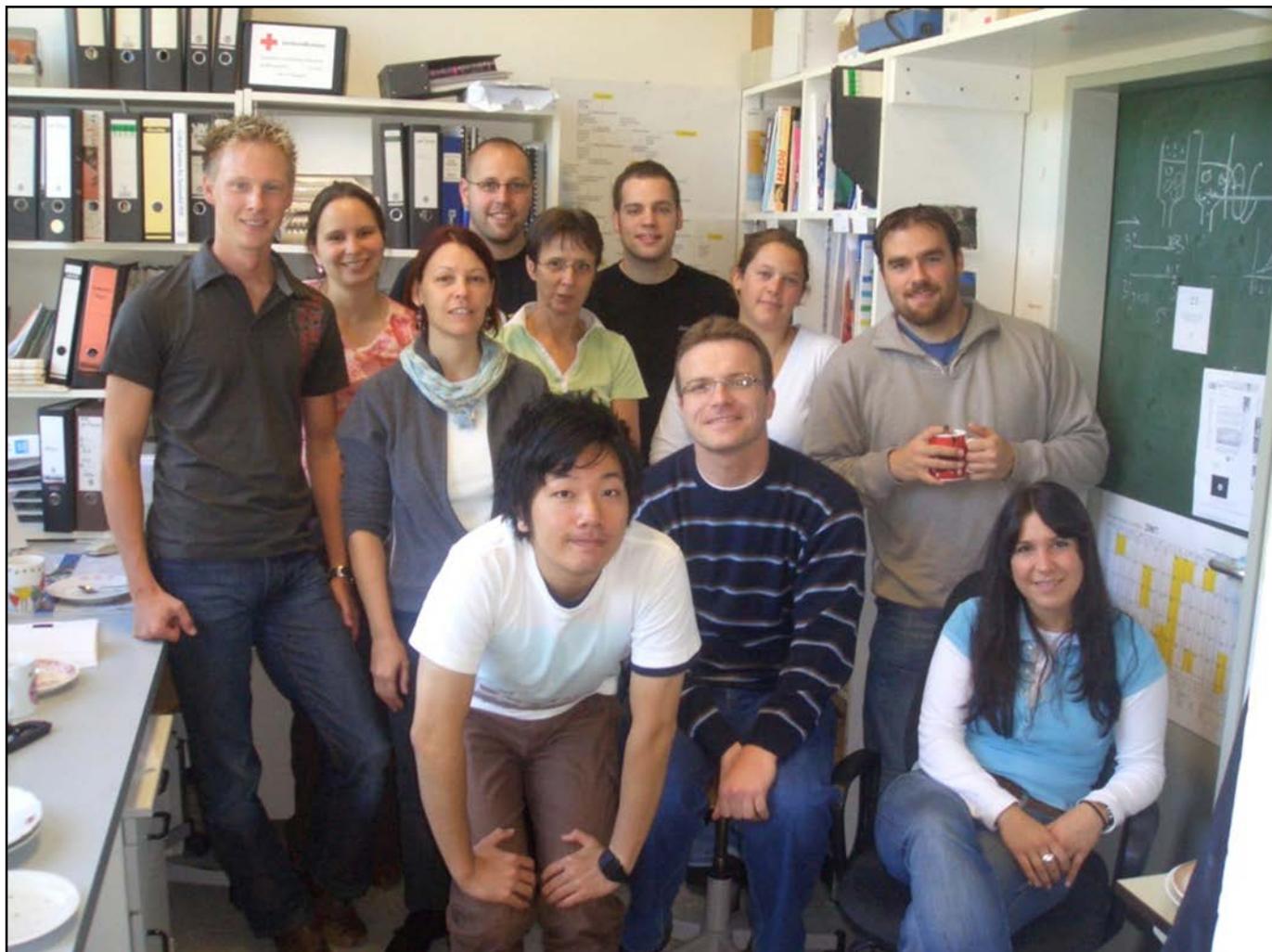


《関西大学国際活動事例集》

理工系学生とドイツの研究者および学生との国際交流

化学生命工学部
教授 老川 典夫



ドイツ・ユーリッヒ総合研究機構バイオテクノロジー研究所での海外実習の様子

【この活動の概要】

主な活動	海外大学との研究者・学生交流
関係機関	ユーリッヒバイオテクノロジー研究所、アーヘン工科大学、ミュンスター大学、ビーレフェルト大学(いずれもドイツ)
実施時期	2007年～継続中
参加者数	(派遣) 2007年6月:アーヘン工科大学で大学院生1名が海外実習。 2007年8月:ユーリッヒ総合研究機構バイオテクノロジー研究所で大学院生1名が海外実習。 2007年8月:ミュンスター大学で大学院生1名が海外実習。 2008年7月:ユーリッヒ総合研究機構バイオテクノロジー研究所で大学院生1名が海外実習。 (受入) 2005年4月:アーヘン工科大学からディプロマコースの学生1名を6ヶ月間受け入れ。 2016年11月:ビーレフェルト大学からマスターコースの学生2名を3ヶ月間受け入れ。



【先生に直接聞いてみました】

Q この活動をはじめられた経緯は？

A 2001年8月から1年間、ドイツ・ユーリッヒ研究機構で関西大学在外研究員として研究生活を行いました。その後、ドイツ滞在中に知り合ったさまざまなドイツ人研究者と、日本帰国後に共同研究を開始しました。その中で学生の相互交流も検討したのですが、当時本学では学生派遣を実施するのに必要な制度が十分確立されていませんでした。そこで、2007年度関西大学重点領域研究(当時・学内の研究助成制度)により得た予算を活用し、ドイツの大学及び研究機関への学生派遣を開始するに至りました。

Q 最初に学生を派遣された当時の状況は？

A 2006年当時本学理工系では、これまで国際交流活動は教員個人単位で行われており、組織的に取組まれたものはほとんどありませんでした。このような背景において工学研究科(当時)では、2006年度の専攻改組後、翌2007年度から派遣実習教育プログラムを開始し、その1つに海外実習を置いて、教員の国際的な共同研究にリンクさせた大学院生の短期派遣実習教育が開始されました。

Q この状況と老川先生の活動とのつながりは？

A 本学における工学研究科の国際交流活動の展開を組織的に活発化させることを目的に、個別に実施されている研究交流をネットワーク型のプロジェクトとして統合的に強化するとともに、大学院生による短期海外実習を実施することを企画しました。そのモデルケースとして生命・生物工学分野を中心に2007年度関西大学重点領域研究に研究課題「生命・生物工学ネットワーク型国際交流プログラムの提案」を申請し採択されました。

Q 研究の成果は？

A これにより、本学における留学生割合の乏しいドイツ、イギリス、フランスなどの欧州諸国の大学及び研究機関との共同研究をネットワーク化し、共同研究を強固に推進するとともに大学院生、特に当時の留学規定では実施不可能な修士課程1年生による短期海外実習を実施することに成功しました。これを契機に本学からドイツの大学及び研究機関への大学院生の派遣と、ドイツの大学及び研究機関から本学への大学院生の受け入れを実施し、共同研究を進展させるとともに、本学学生が異文化に触れ、英語によるプレゼンテーション力やコミュニケーション力を向上させるとともに国際感覚をも養うことができるよう取り組んでいます。

Q 苦労されたことは？

A 本学学生を海外に派遣する場合、引率や経費及び安全確保に苦労しました。また本学にドイツの学生を受け入れる場合、2005年当時、本学にそのような身分の学生を受け入れる制度がなく、関係部署との調整に苦労しました。特に、宿泊施設の確保に大変苦労しました。協定大学以外からの理工系短期受け入れ外国人学生向けの宿泊施設がもっと充実すると大変ありがたいのですが・・・。

Q 費用は？

A 2007年度は重点領域研究助成制度を活用しました。それ以降は、原則渡航希望学生の私費により受け入れと派遣を行っています。



Q 今後の展開は？

A 今後もドイツを中心に短期の学生派遣と受け入れを継続し、理工系学生の国際化に少しでも貢献できるように取り組みを続けたいと考えています。



ドイツ・ミュンスター大学での海外実習の様子

【参考 URL】

関西大学化学生命工学部 酵素工学研究室 WEB サイト(英語)

http://biomole.life-bio.kansai-u.ac.jp/new/index_en.html

発行: 関西大学国際部 <http://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/>